

## 授業概要

平安時代後期の一女性が書いた『更級日記』を講読する。今から 900 年前の女性の半生記だが、その内容には、現代の我々と共通する問題が見出せる。特に注目されるのは、少女時代には〈一般的な常識〉や〈世間的な通念〉にとらわれていたらしい作者が、旅の中での見聞や家族内での位置の変化、また女房としての勤労などを経て、自分にフィットする考え方（価値観）を作り上げていることである。

〈経験〉に学んで、常に〈認識〉を更新し続けた作者の生き方に着目して、『更級日記』を読み解いていく。また、この作品を彩る象徴的な表現が何を意味するのかについて講義する。

## 授業計画

第1回	ガイダンス	日記文学の概要 と 『更級日記』の背景
第2回	京都への旅立ち	王朝貴族社会の通念
第3回	「竹芝伝説」	〈都〉と〈関東〉の対称性
第4回	足柄山の遊女	常識にとられないまなざし
第5回	愛する人との別れ	〈成長物語〉としての『更級日記』
第6回	『源氏物語』を読みふける	〈物語〉の持つ意味
第7回	姉の死	ロマンティックな少女時代を脱ぎ捨てる
第8回	東山移住	〈花紅葉月雪〉の意味
第9回	父の単身赴任	父母に与えられた役割
第10回	初瀬代参	〈天照御神〉の機能
第11回	父の退隠	父娘の位置が逆転するとき
第12回	女房生活	キャリア・ウーマンへの憧れと挫折
第13回	結婚と再就職	挫折を乗り越える力
第14回	源資通との出会い	〈経験〉を通して自分を知る
第15回	初瀬詣で	〈外界〉を知るための手段
第16回	筆記試験	

## 到達目標

- ・ 作品を読んで、作者の体験や感懐を想像し、自分の問題として考えることができる。
- ・ 人間が〈経験〉を言語化することにより、挫折や苦悩を乗り越えて、新たな認識を獲得できることを追体験する。

## 履修上の注意

授業中にしばしば受講生の意見を求めるので、指名されたら必ず答えること。  
小テスト（記述式、所要時間 40 分程度）を行う。

## 予習・復習

予習は必要ないが、授業を聞いてノートをきちんと取り、復習しないと、小テストをクリアできません。

## 評価方法

定期試験（65%）と小テスト（35%）を総合して判定する。

## テキスト

原岡文子訳注『更級日記』（角川ソフィア文庫）